

カキ「伊豆」のウイルス病類似症状樹で認められた接ぎ木伝染性病害

[要約] 浮羽郡内のカキ「伊豆」に発生したウイルス病類似症状のうち炭疽病症状や粗皮症状を呈するものは、接ぎ木接種により伝染性の病害であることが確認された。接ぎ木接種により栽培品種である「西村早生」以外の「伊豆」「松本早生富有」「富有」で粗皮症状の病徴が再現された。

担当部署	果樹苗木分場・ウイルス無毒化研究室			連絡先	09437-2-2243
対象作目	果樹	専門項目	病害虫	成果分類	生理生態

[背景・ねらい]

浮羽郡のカキ産地の品種「伊豆」に、炭疽病に似た症状や粗皮(裂皮)症状等のウイルス病類似症状が発生した。上記発生樹は、樹勢が弱くなり果実生産力が小さかった。そこで、常法によりバクテリア、糸状菌の分離を行ったが、何も検出できなかった。従来、カキについてはウイルス病の報告がなく、ウイルス性病害の可能性があるため伝染性の確認と病原体の検出を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 新梢に発生する炭疽病類似及び2年枝に発生する粗皮(裂皮)症状は、接ぎ木接種により2年後に「伊豆」で再現される(表1)。
2. 栽培品種である「松本富有早生」「富有」では、接ぎ木接種により上記症状が4年後に発現するが、その症状は主として粗皮症状である(表2)。
3. ウイルス病を想定し、検定植物であるキノア、アカザ、トマト、タバコ、キュウリに汁液接種したが、接種上位葉に症状は発現しなかった(データ省略)。
4. 粗皮症状は病原がファイトプラズマではないかと想定し、抗生物質を散布したが発症を抑制できなかった(データ省略)。
5. その他、核酸を抽出し2次元電気泳動等により病原体の検出を試みたが、ウイロイド等の検出はできなかった(データ省略)。

[成果の活用面・留意点]

1. カキ苗木を育成する際は、炭疽病症状及び粗皮症状を示している樹からの採穂をしないようにする。

[具体的データ]

表 1 接ぎ木 2 年後の発生症状

調査品種	試験樹番号										対照			
	1		2		3		4		5		1		2	
	CB	N	CB	N	CB	N	CB	N	CB	N	CB	N	CB	N
伊豆	+	+	+	+	+	+	N.T	N.T	-	-	-	-	-	-
西村早生	-	-	-	-	-	-	-	-	N.T	-	-	-	-	-
富有	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
松本早生富有	-	-	-	-	-	-	±	+	-	-	-	-	-	-

注) 1 . CB : 冬枝基部の粗皮 N : 新梢の炭疽病類似症状

2 . N.T:未実施

表 2 接ぎ木 4 年後の発生症状

調査品種	試験樹番号										対照			
	1		2		3		4		5		1		2	
	CB	N	CB	N	CB	N	CB	N	CB	N	CB	N	CB	N
伊豆	+	+	+	+	+	+	N.T	N.T	-	-	-	-	-	-
西村早生	-	-	-	-	-	-	-	-	N.T	-	-	-	-	-
富有	-	-	+	-	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-
松本早生富有	+	-	-	-	枯死	+	+	+	-	(+)	-	-	-	-

注) 1 . CB : 冬枝基部の粗皮 N : 新梢の炭疽病類似症状

2 . N.T:未実施 (+) : CB類似症状



図 1 伊豆に発生した炭疽病類似症状及び粗皮症状

[その他]

研究課題名 : カキのウイルス病類似症状の解明と対策

予算区分 : 経常

研究期間 : 平成12年度 (平成 9 ~ 12年)

研究担当者 : 野口保弘、井樋昭宏、草野成夫、下村克己